

## 令和5年度愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修（20231130）

テーマ「安全計画の策定と実践～マニュアルを作成し、リスクマネジメントを行いましょう～」

学童保育所あそびばクラブ 平岩葉介

学童保育は、児童福祉法にもとづき、「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準（以下、設備運営基準）」という、いわゆる「最低基準」が定められています。全国のいろいろなところで運営されている学童保育は、この設備運営基準を守りながら運営されています。この設備運営基準が改定され（令和5年4月1日施行）、第6条に以下の条文が追加されました。

（安全計画の策定等）

第6条の2 放課後児童健全育成事業者は、利用者の安全の確保を図るため、放課後児童健全育成事業所ごとに、当該放課後児童健全育成事業所の設備の安全点検、職員、利用者等に対する事業所外での活動、取組等を含めた放課後児童健全育成事業所での生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修及び訓練その他放課後児童健全育成事業所における安全に関する事項についての計画（以下この条において「安全計画」という。）を策定し、当該安全計画に従い必要な措置を講じなければならない。

- 2 放課後児童健全育成事業者は、職員に対し、安全計画について周知するとともに、前項の研修及び訓練を定期的実施しなければならない。
- 3 放課後児童健全育成事業者は、利用者の安全の確保に関して保護者との連携が図られるよう、保護者に対し、安全計画に基づく取組の内容等について周知しなければならない。
- 4 放課後児童健全育成事業者は、定期的に安全計画の見直しを行い、必要に応じて安全計画の変更を行うものとする。

この安全計画は、2023年度内に策定しなければならないと定められていますので、このような研修が開催されたわけで、安全計画の内容は、以下の項目について策定することになっています。

### 1. 安全点検

(1) 施設・設備の安全点検（専用区画以外の場所についても定期的には実施を検討すること）

- ・重点点検箇所を4月から3月ごとにわけて策定する。

(2) マニュアル（指針）の策定・共有（策定期間、見直し予定時期、掲示・管理場所）

- ・事故防止マニュアル（指針）  
おやつ・食事、事業所外での活動、バス送迎、降雪
- ・防災マニュアル（指針）
- ・緊急対応時マニュアル（指針）

- 防犯（不審者対応時）マニュアル（指針）
  - 感染症対応マニュアル（指針）
2. 児童・保護者に対する安全教育等
- (1) 児童への安全教育
    - 発達段階に応じ、1年生、2・3年生、4年生以上にわけ、年3回実施する。
  - (2) 保護者への周知・共有（年3回実施）
3. 避難・訓練等
- (1) 避難訓練等
    - テーマ・取り組み・参加予定者を定めて、毎月実施する。
  - (2) その他訓練（実施予定時期、参加予定者）
    - 119番通報訓練
    - 緊急対応（心肺蘇生法、気道内異物除去、AED・エピペンの使用等）
    - 不審者対応訓練（110番通報訓練等）
    - 来所・帰宅時における非常時対応訓練
    - その他（送迎バスにおける見落とし防止等）
  - (3) 職員への訓練・講習（年3回実施）
  - (4) 行政等が実施する訓練・講習スケジュール
4. 再発防止策の徹底（ヒヤリ・ハット事例の収集・分析の方法）

避難訓練は、どの学童保育でもすでに実施されていますし、マニュアル（指針）も策定されていますし、研修も定期的に関催されていますが、それらを網羅的に1年間の計画としてまとめ、確実に実施していきましょう（見直しも）ということです。

「学童保育でいちばん大事なことは？」と問われたときに、僕たち保育者は、「子どもの気持ち」や「子どもの育ち」を語りがちです。もちろんとてもとても大事なことですが、究極的に考えると、僕らの仕事は「子どもの命を守る」ことですので、いちばんとなると安全ということになります。

では、その安全はどのように作りだしていくのでしょうか。

子どもたちの安全を突き詰めていくと、「その場から一步も動くな」ということになります。ケガにつながるので体を動かすあそびは禁止です。外あそびはもってのほかです。いろいろなリスクが高まるので遠足やイベントも禁止です。誤飲や窒息を防ぐためおやつは禁止です。昼食は必要最小限かつ黙食です。唯一許される行為は、指定された席で黙々と宿題をやるか黙々と本を読むかです。そんな放課後が「ゆたか」なのかどうかは明白です。

僕ら保育者は、どのように安全を確保もしくは担保しつつ、子どもたちが楽しく毎日生活できるかを考えています。子どもたち自身も考えながら、みんなが安全に楽しく生活するためには、どのようなルールや決まりが必要かを考えています。

得てして、安全に比重が偏りすぎて、日々の生活が楽しくないという話をよく耳にします。子どもたちの安全とゆたかな放課後のバランスが僕らに求められているのだと思います。